

## 校區別地震防災カルテの見方

目次	タイトル	主な掲載内容
	<b>校区のむかしと今</b>	<p>はじめに、自分の住んでいる地域が昔はどんな様子だったのか、今と比べてみましょう。</p> <p>明治23年ごろの地形と今の地形から、100年以上かけてどのように変化したのかが分かります。</p>
1	<b>校区の位置図</b>	<p>この項目では、自分の住む地域の位置関係が分かります。</p> <p>校区の範囲が掲示されており、校区内にある町内会も分かります。</p>
2	<b>校区の構成</b>	<p>この項目では、校区内の町名、字名を知ることができます。</p> <p>どのあたりまでが自分の住む校区に含まれるのかが分かります。</p>
3	<b>校区の概要</b>	<p>この項目では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内における校区の位置関係や、市境について</li> <li>・校区内の河川や地形の特徴</li> <li>・校区内の土地利用、主要道路、町内会</li> <li>・校区の人口推移、建物状況</li> </ul> <p>などが分かります。</p> <p>人口については2006年3月末時点と、2015年3月末時点を年齢別に比較しており、どのように推移しているかが分かります。</p> <p>また、校区内の建物棟数を建築年別、および木造・非木造別に2011年12月時点で、掲載しており、その比率から、木造建築が多い場合は火災、1981年（昭和56年）以前の旧建築基準で建てられた建物が多い場合は家屋倒壊などの被害が懸念されます。</p>
4	<b>被害予測の結果 過去地震最大モデル</b>	<p>過去に南海トラフで繰り返し発生してきた地震・津波のうち、発生したことが明らかで、規模が大きい5つの地震（1707年：宝永地震【M8.6】、1854年：安政東海地震【M8.4】、1854年：安政南海地震【M8.4】、1944年：昭和東南海地震【M7.9】、1946年：昭和南海地震【M8.0】）を重ね合わせた過去地震最大モデルにおける被害の予測が分かります。</p> <p>この、過去地震最大モデルは市の地震対策を検討する上で重要な想定となっています。</p> <p>①地震動の大きさからは多くの地域が震度6弱、一部が震度6強であることが分かります。</p> <p>②液状化の危険性については、安城市では油ヶ渚に近い明和小学校区および文山小学校区で危険度が高い他、河川の付近で危険性が想定されています。</p> <p>③地盤沈下量は、0m～0.1m、0.1～0.3m、0.3～0.5m、0.5m以上に分けて予測しています。</p>

		<p>④全壊焼失率は倒壊、火災（延焼）によって全壊となる可能性を示しています。その上で⑤は、揺れによる倒壊の全壊率で、耐震化を進める事で防ぐことのできるものを、⑥は、火災（延焼）による焼失で、消火器の準備や、発災時にブレーカーを落とすなどの火災対策で防げるものを示しています。</p> <p>D I D（国勢調査に基づく人口集中地区）にお住まいの方は感震ブレーカー設置費用に対する助成制度もあります。</p> <p>建物・人的被害の予測ではそれぞれ一番被害が大きいとされる時間帯の予測を掲載しています。</p> <p>【建物被害】 食事の煮炊きで火を扱う世帯が増える、冬・夕方設定  【人的被害】 寝静まっていて無防備な状態の、冬・深夜で設定</p> <p>ライフライン被害の予測では、発災後の被害がどのようなものであるかと、95%復旧するのに要する期間を示しています。</p> <p>上下水道は多くが断水、または利用困難となり、復旧にも長い時間がかかることが分かります。</p> <p>普段から循環備蓄を意識し、お風呂の水をためておく等の備えが必要です。避難者数の予測では、校区の避難者数と市計を比べることができます。</p> <p>表中の『避難所』は避難所で生活する避難者数で、『避難所外』は自宅が倒壊しておらず、住むことはできるが、物資を受け取りに避難所にくる人の人数です。</p> <p>※丈山小学校区および明和小学校区は、浸水想定域及び最大浸水深分布と、浸水が30cmに達する時間を示した図を掲載しています。</p> <p>浸水の可能性のある地域では、発災直後ただちに水辺から離れ、台地の上など、できるだけ高いところに避難することが望まれます。</p>
5	<b>被害予測の結果 理論上最大想定モデル</b>	<p>南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した理論上最大想定モデルにおける被害予測が分かります。</p> <p>「4. 被害予測の結果 過去地震最大モデル」での被害予測に比べ、被害の程度も深刻になっているのがわかります。</p> <p>①地震動の大きさからは多くの地域が震度6強、一部が震度7であることが分かります。</p> <p>図・表の見方は「4. 被害予測の結果 過去地震最大モデル」と同様です。</p> <p>※丈山小学校区および明和小学校区は、浸水想定域及び最大浸水深分布と、浸水が30cmに達する時間を示した図を掲載しています。</p> <p>浸水の可能性のある地域では、発災直後ただちに水辺から離れ、台地の上など、できるだけ高いところに避難することが望まれます。</p>
6	<b>防災関連施設</b>	<p>避難所だけでなく、怪我や病気の場合、火災が発生した場合、資機材の場所、水の確保、マンホールトイレの設置場所など、知っておくべき防災関連の施設</p>

		を一覧にしています。
7	避難所等一覧	<p>校区内にある避難所・臨時避難所・福祉避難所・特定福祉避難所・避難場所の一覧です。</p> <p>発災時、どこに避難するのか、普段から家族で話し合っておきましょう。</p>
8	防災上の課題	<p>ここでは校区の防災上の課題が分かります。</p> <p>「4. 被害予測の結果 過去地震最大モデル」および「5. 被害予測の結果 理論上最大想定モデル」の被害予測をもとに、どのような被害が多く予測されるのか、また被害を防ぐためにどうしたらよいかを知り、対策に活かしましょう。</p>
9	防災関連施設分布図	<p>校区の地図上に「7. 避難所等一覧」のほか、「6. 防災関連施設」に掲載されている施設を記しています。</p> <p>また、緊急輸送道路も国・県指定と市指定で色分けをして記しています。この道路が、乗り捨てられた車や、徒歩帰宅者で通行を妨げられると、急病人の搬送や消火活動、および物資の運搬の妨げとなる可能性があります。</p> <p>河川や水路も記されています。河川の近くでは液状化の危険性もあります。</p>

- ・小学校区別地震防災カルテは地域ごとに予想される被害に着目して、校区ごとに地震の被害予測をし、対策をするために作成されました。
- ・自分の住む地域の危険についてあらかじめ学び、訓練や啓発にご活用下さい。また対策や備えの参考として下さい。